

ご挨拶

一般社団法人 日本てんかん学会

白石 秀明

IGAP (Intersectoral Global Action Plan)

- てんかんと神経疾患合同の世界的行動指針(IGAP) が、**2021年5月**にジュネーブで開催された**75回WHO総会**で、承認決議された。
- **116カ国**の加盟国と、**4つ**の国際関連団体が、この計画を支持する意見表明をして、満場一致で可決された。
- **IGAP**は、てんかんと神経疾患に有する人々のために ケアと公益活動を提供して、様々な格差に対処することを宣言している。
- 問題は全世界に存在して、様々な部門の垣根を越えて、包括的で統合された行動を保証していくものである。

領域横断的な、てんかんと神経疾患の世界的行動指針案 (IGAP)



(国際抗てんかん連盟のホームページより) f

About ILAE

Guidelines

Congresses

Regions & Countries

Journals

Patients

Draft Intersectoral Global Action Plan on Epilepsy and Other Neurological Disorders (IGAP)



90%の患者さんは、
てんかんが、**治療可能**な、
中枢神経系(脳)の病気である
ことを理解しています。

80%の患者さんは、
適切な費用で、**安全な抗発作薬**
で治療できる環境にいます。

70%の患者さんは、
良好にてんかん**発作が**
抑制されています。

IGAPの大きな目標

IGAP には2つの大きな目標が掲げられている。

1. てんかんに対する公益活動の充足を**2021年**から今後**10年**間で**50%**以上改善する。
2. **80%**の加盟国で、法律的担保を明確にして、てんかんを有する人々の権利を守り、改善していくことを目標とする。

現状と行動目標

3分野の課題

1. てんかんを有する人々に対して公益活動

諸国間での所得格差により治療のギャップが生じている。

2. てんかんを有する人々の雇用とサポート

周囲からの誤解によるネガティブな態度により差別され烙印を押されたような気持ちになっている。

3. てんかん発作は、神経疾患の治療の入口になる。

IGAPの達成するもの

- 未だに全世界で、てんかんを有する人々とその家族は、てんかんという烙印、差別（無視、誤解、冷徹な態度など）に、常に苦しんでいる。
- **IGAP** により、発症予防、疾患の早期診断、治療・ケアをサポートし、全世界のてんかんと神経疾患を有する人々に均等な機会を提供する。

IGAPの現状

- IGAPでは、2031年までに全ての国が少なくとも1つの機能する啓発・アドボカシープログラムを持つことが目標として明示された。
- これは、てんかん啓発を善意の活動ではなく、各国が整備すべき公衆衛生施策として位置づけた点で大きい。

IGAPの現状

- 2022年採択、2023年に正式文書公表、2024年に実装ツールキットが整備され、現在は各国実装の段階にある。
- 一方で、啓発活動が実際にどの程度各国で機能しているか、世界全体でどこまで達成したかを示す中間評価はまだ限定的である。